

「学校の荒れ」の要因・背景と今後の具体的な対策の概要

「学校の荒れ」とは

暴力行為や反社会的行為など児童生徒の問題行動等自体と、その行動により学校における教育活動の円滑な実施を妨げられ、他の児童生徒が落ち着いて学習に向かえる環境さえも阻害されている状況、また、場合によっては負の連鎖が広がり、学級全体の運営が困難になる、いわゆる学級崩壊の状況などを「学校の荒れ」として捉えた。

現状は

- 暴力行為
 - 22年度は、小・中・高合わせた暴力行為の発生率が全国でワーストであった
 - 23年度は22年度に比べ、小学校では微増、中学校ではかなりの減少が見込まれる
- 学級がうまく機能しない、授業が成立しない
 - 小・中学校ともに、全体の1割程度の学校で、こうした状況の学級がある
- 教室に入らない児童生徒がいる
 - 小学校で3%程度、中学校で25%程度の学校で、こうした状況が見られる

子どもに見られる要因は

- 規範意識・社会性の低下
- 多動・衝動性・自己統制力の低さ、抑うつ
- 基本的な生活習慣の乱れ
- 学習面での理解の遅れ
- ↓
- 自分がやるべきことが見い出せていない
- 居場所がない ●自己肯定感の低下

背景と課題

学校では

- ・学校全体で指導する体制の弱さ、社会や子どもたちの変化に対応する教員の指導力の弱さが見られるため、専門家の配置等も含めた学校の生徒指導体制や教員の生徒指導力の強化が必要
- ・外部からの協力を得やすくするための校内体制づくり・意識改革が必要
- ・子どもたちの興味・関心を惹き付ける授業づくりや個別の学習支援の弱さが見られ、授業改善の促進が必要
- ・意欲を持って活動できる場の提供の弱さが見られ、体験活動の一層の充実が必要
- ・多動・衝動性などの行動特性への理解の不足があり、学校の理解や対応力の一層の充実が必要
- ・基本的な生活習慣等が十分に培われないまま小学校へ入学するなど、学校に機能以上の役割が求められる場合等に、学校の過重負担や抱え込みの状況が見られ、専門的知見を持つ関係機関等との連携の強化が必要

家庭では

- ・核家族化、少子化等を背景に、家族関係の希薄化や家庭の孤立化が進む中で、育児不安や悩みをもつ保護者や、過保護、しつけ不足、無関心など、教育力に課題のある保護者が増加しており、保護者同士の支え合いや地域の中でのネットワークづくりを行いながら、家庭への直接的なアプローチ・支援が必要

地域では

- ・個人主義の浸透、地縁的な人のつながりの希薄化等を背景に、祭り等の地域行事の衰退、子ども同士や子どもと地域の方との交流機会等の減少が進んでおり、地域における子どもの活動機会の充実とそれを支える地域人材の裾野の拡大、さらには家庭を地域で支える仕組みづくりが必要

学校

家庭

地域

今後の主な具体的な対策

- ・学校の組織的な対応や教員の生徒指導力の向上（問題行動等の事例に応じて具体的な指導方法等を例示した「生徒指導対応ハンドブック」の作成・活用）
- ・スクールカウンセラーの拡充・重点配置
- ・開かれた学校づくりの一層の推進（情報の発信、関係者間での情報共有。「地域連携担当」教職員の設置）
- ・オルタナティブプログラムの研究（教室に入らない児童生徒の教室以外の個別学習指導等）
- ・学力向上アクションプランの見直し、家庭学習促進計画の推進（学力向上の総合的推進）
- ・小学校におけるプレワーク（仕事・作業体験活動）の推進（中学校の職場体験活動への接続）
- ・多動・衝動性などの行動特性に関わる教員研修の充実
- ・支援を要する子どもに関わる学校種間の円滑な接続等の促進（→関係機関〈保健・福祉・医療〉との連携による早期発見と適切な支援）

関係機関との連携

- ・おかやま子ども・若者サポートネットによる支援（教育、福祉、保健、医療、矯正、更生保護、雇用等の専門機関や市町村、NPO・民間支援団体等で構成し、困難を有する子ども・若者やその家族を総合的に支援）
- ・市町村子ども・若者支援地域協議会（ネットワーク）設置の支援（より身近な市町村における支援）
- ・学校警察連絡協議会活動の活性化、非行防止教室等の推進（教員と警察官のティーム・ティーチング等）
- ・少年警察協働員会、地域安全推進員協議会、少年を守る母の会等による学校支援
- ・スクールソーシャルワーカーの拡充
- ・家庭環境改善サポーターの配置（スクールソーシャルワーカーと連携して家庭と福祉機関等の接続を支援）
- ・家庭教育支援チームの取組の拡充（身近な場所での保護者支援、「親育ち応援学習プログラム」を活用した支援等）
- ・地域ボランティアの裾野の拡大による学校支援や放課後支援等の取組の拡充（課題のある子どもの居場所づくりや学習支援の充実、親子を支援する取組の充実）
- ・全県的な子ども応援人材バンクの設置・活用（人材の掘り起こしや活動の促進等により、各市町村や学校による地域人材を活用した取組を一層促進）

県民運動の展開 ↓ 社会全体の取組推進

H24. 2. 19 「岡山の教育を考える県民フォーラム」を開催

知事からメッセージの発信 ～子どもたちの健やかな成長のために～

- ・子どもへ：周りの仲間を大切に。約束やきまりを守る。良いところを伸ばす。等
- ・保護者へ：しっかり触れ合う。命の大切さ、思いやりの気持ち、基本的なルールやマナーなどを教える。等
- ・先生へ：信念と愛情を持って教育活動に当たる。保護者や地域の方と共に取り組む。等
- ・地域へ：子どもたちに積極的にあいさつや声かけをする。祭りや清掃活動など子どもたちの活動の場を設ける。等

パネルディスカッションでの提案

- ・学校としての責任を果たすこと、医療・福祉・NPO等との連携、子どもや大人の生活に関するルールづくり等

これまでに青少年の健全育成に取り組んできた土壌を肥沃化
→「青少年問題を考え、行動する100人委員会」による県民運動の展開

「学校の荒れ」の解消に向け

知事のメッセージやディスカッションでの提案を受け、県民がそれぞれの立場で取り組める具体的方策を100人委員会で決定・発信を要請
→ 青少年健全育成強調月間（7・11・3月）に啓発キャンペーンを展開し、それぞれの取組を促進